第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

「に」の識別

【識別対象】

1　**形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2　**ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3　**完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4　**断定の助動詞「なり」**の連用形
5　**格助詞**の「に」
6　**接続助詞**の「に」
7　**副詞・副助詞**の一部　↓　「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈見分け方〉＝「　　」→「　　」

1　「　　・　　」＋に＝**形容動詞**

「　　」「　　」「　　」＋**に**　の形が多い。

2　＿＿＿ **にの**「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

3　「　　」形＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋＿＿＿　の形が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

4 「　　　」＋に

断定の助動詞　※左記「断定」参照

格助詞　（「である」と訳せない）

※**断定**

○ **に**＋（助詞）＋

○ **に**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

5　「　　」形＋に
- **断定**の助動詞　→　4の「※断定」と同様なので、そちらを参照のこと。
- **格助詞**
- **接続助詞**

※格助詞

連体形＋に　述部

※接続助詞

連体形＋に、～

⇒「　　」「　　」「　　」で訳せる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　「この事も果てにしむつかしさに…」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形

ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　副詞の一部

オ　接続助詞　　カ　形容動詞の連用形活用語尾

問二　「思へるにや。」に含まれる助動詞「る」「に」の文法上の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

1　「る」は自発、「に」は完了　　2　「る」は自発、「に」は断定

3　「る」は受身、「に」は完了　　4　「る」は受身、「に」は断定

5　「る」は存続、「に」は完了　　6　「る」は存続、「に」は断定

問三　次の二重傍線部ａ・ｂ「に」の文法的説明として、最適なものを後の中から選べ。

「元の帯ａにはあらねども、むなしく失ひて…」

「手をすりて、とりてまかりｂにけり。」

1　断定の助動詞の連用形　　2　接続助詞　　3　格助詞　　4　動詞の連用形活用語尾

5　完了の助動詞の連用形　　6　形容動詞の連用形活用語尾　　7　副詞の一部

a＝　　b＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　次のa～eの「に」の説明として、最も適当と思われるものを、後のア～オからそれぞれ選べ。

「この所を見る[a]に、憂き世ながらかかる所もありけりと、～」
「ここかしこ[b]に鈴の音などを聞くにつけても、～」
「雲居遥か[c]に心を送るしるべとぞなりにける。」
「思ひしづむる時なき[d]にしもあらねば、～」
「なほ思ひ慣れ[e]にし夕暮れの眺めにうち添ひて、～」

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　単純な接続を表す接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　場所を表す格助詞

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問五　「みな乱世にてはべれば、わろき事にてのみあらんずるをはばかりて、…」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

1　年にそへ日にそへては、…
2　道理もあはれにおぼえて…
3　すでに残り少なく、…
4　人も申し置かぬにやと、…
5　衰へにたることわり、…

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【識別総合練習問題】

問六　次の傍線部a～fについて、文法的に正しい組み合わせを後の中から一つ選べ。

人がらなりければ[a]にや、…
女はえ詠ま[b]ぬにや、
なかなか[c]に、半ばなる月を見る心地するに、…
この花やがてにほは[d]なむ。
皇子出で給ひ[e]ぬれば、…
見ずなり[f]なむこそあはれなれと、…

イ　a「に」とc「に」が同じ。
ロ　b「ぬ」とd「な」が同じ。
ハ　b「ぬ」とe「ぬれ」が同じ。
ニ　d「な」とf「な」が同じ。
ホ　e「ぬれ」とf「な」が同じ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

敬語 (1)

★敬語の種類＝「　　　」語・「　　　」語・「　　　」語

★本動詞と補助動詞

○**補助動詞**の型

①「　　　」＋**V**

（例）書き**奉る**

※形容詞・形容動詞＋**V**のVは、「あり」の意味の動詞

※用言＋助動詞＋**V**もある。

（例）書かせ**給ふ**

②「　　　」＋「　　　」＋**V**

（例）書きて**侍り**

③「　　　」＋「（　　　）」＋

「　　　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

（例）女房に（て）**候ふ**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★それぞれの種類の補助動詞と訳

○

給ふ（　　　　） おはす おはします

＝

（訳）「〜　　　」・「　　　〜　　　　」

○

奉る 申す 聞こゆ 参らす 給ふ（　　　　）

＝

（訳）「（お）〜（し）　　　」・「　　　〜　　　　」

○

侍り 候ふ

＝

（訳）「〜　　　」・「〜　　　」・「〜　　　　」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　「心地し①はべるに、…」「〜いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部①〜③の敬語の種類を、それぞれ次の中から選べ。

a　尊敬語
b　謙譲語
c　丁寧語

①＝

②＝

③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

① 「思ひなしにや、～」の二重傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

ア　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず
イ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
ウ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ
エ　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし
オ　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり

② 「おはしましぬ。」の「ぬ」と文法的に同じものを、次のア～エの中から一つ選べ。

ア　酔ひにけり　　イ　往にけり　　ウ　恋しきに　　エ　さばかりに

③ 次のア～オの二重傍線部の中から、一つだけ文法的に異なるものを選べ。

ア　「～御心も通ひぬべきを…」
イ　「～老人御方に入りたまひにけり。」
ウ　「今宵この人々にや食はれなんと思ふも…」
エ　「男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。」
オ　「中将、言ひわづらひて帰りにければ、…」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十一講　模範解答

問一　イ

問二　6

問三　a　1　b　5

問四　a　イ　b　オ　c　ウ　d　エ　e　ア

問五　4

問六　ホ

問七　①　c　②　b　③　a

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第十一講　「に」の識別／「敬語」(1)

〈**解説**〉

① 「に」の識別。「**にや・にか・にこそ**」で、その下が「、」か「。」の場合は、「あらむ（あらめ）」が省略されており、「に」の下に「**あり**」がある形から「**断定**」の「に」と判断。よって、設問文は「にや、…」なので「断定」。選択肢アも「に」の下に「あらず」と「**あり**」がある形から「**断定**」。ちなみに、イとオは動詞の連用形についているが、どちらも格助詞「に」。オも、イのように、同じ動詞を重ねて、動詞の連用形についている「に」は強調の働きの格助詞〈例〉「泣きに泣く」など）。オも、動詞の連用形につき、動作の目的を示す働きの格助詞。格助詞「に」が連用形につくと、このどちらかの働きであるが、基本は体言・連体形につく。本設問では、イもオも連用形につく格助詞で、これが「格助詞」だとわからなかった人はたくさんいるだろうが、少なくとも断定ではないので、解答からは削れたはず。ウは、接続助詞「に」。エは「ひたぶるに」で一語の形容動詞。

② 設問文の「ぬ」は、**連用形に接続**しているので「**完了**」の助動詞。選択肢アの「に」が、**上が連用形**（もしくは**下に「けり」**があり、上が「死」「去」「往」ではない）から「**完了**」。よって、正解はア。

③ 選択肢エは「**往に**」で一語の**ナ変**動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、正解はエ。

〈**解答**〉

①　ア　　②　ア　　③　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。